

東北次世代がんプロ養成プラン 共催セミナー実施報告書

セミナー名称：第3回若年性がん患者さんのためのオンラインカフェ
1. 担当分野
がん看護学分野・緩和ケア看護学分野
2. 実施年月日
令和4年12月17日
3. 開催場所・開催方法
zoom
4. 関連分野・領域
AYA世代、ピアサポート、がん看護、緩和ケア看護
5. 対象者
15歳以上40歳未満にある時期にがん罹患された方、がん治療中、経過観察中の方(がんの種類や性別は問いません)、ピアサポートされている方。
6. 参加者について
参加者合計人数：5名 学内参加者数：1名(看護師1名) 学外医療者数：1名(看護師1名) ピアサポーター数：1名(看護師1名) がん体験者数：3名 その他数：0
7. 成果
<p>本会は COVID-19 感染拡大後に、3年ぶりの開催となった。参加者は、第2回に参加した方1名、広報の確認により参加した方2名の計3名であった。</p> <p>参加者の事前アンケートによる共通の話題は、生活であった。3名、それぞれが聞いてみたいことを1点ずつ話し合う時間を設けた。全員が補助療法中であったため、闘病を超えた現在の心境について話し合っていた。「がん患者というように、自分自身では思っていない。もう治っていて、病院でのフォローアップが必要なだけ。それでも仕事の調整は必要で、昇進にも影響している。仕事を変えようかと悩んでいる。」「周囲にがん患者であることを話したか、話した場合にどんな反応をされてどう返したか。」などの体験を各々が語り合っていた。1時間の枠ではあったが、話し足りない状況も見受けられた。</p> <p>また、前回参加者が引き続き参加し、「この場では、解決しないことも多いが、この場はそういう場ではなくて、思いを話してスッキリしたり、勇気をもらったり、みんなから新しい考え方を学ぶ場所。ここで出会った人たちと連絡をとっていて、その人の考えで救われた。人生、深く考えすぎてもダメ出し、思ったより考えすぎたようにはならない。無責任かもしれないけれど、きままに過ごすのが一番かなっていう心境。」と語っていた。第3回はそれぞれがピアサポーターとなり、このカフェを通じて、サポートの和が醸成されてきていた。</p>